

世界中にいつぱいの平和を

呉市立広小學校 六年 相原 直

「いただきます。」

今日もおいしいごはんを食べる。僕は一度計算してみたことがある。僕は一年でお茶椀約千杯分のごはんを食べている。一歳頃から食べ始めたとして、これまでに食べたごはんはお茶椀約一万二千杯分だ。僕はおかわりをすることも多いので、きつともつともつと食べている。

僕にはごはんを食べられなかった二週間がある。平成三十年七月のことだ。西日本豪雨災害が発生し、尊い命がうばわれ、被害も甚大なものだった。あの頃の土砂で道路がおおわれていた景色。普段通る道に流されてきていたどこがら来たのか想像もつかないむき出しになった大きな木の根。このことも今でもはつきり覚えていいる。そして僕には何もできないと感じたことも覚えていいる。僕の住む地域では、災害の被害は少なかったが、災害の

数日後から断水となった。学校は早めに夏休みに入り、僕の長い夏が始まった。断水が起こり、お風呂、トイレ、食事、生活の全てが止まってしまった。給水所に何度も並んで水をもらった。お風呂は水で簡単に済ませ、トイレは何回分かためてペットボトルで流した。食事は食器が洗えないので、家にある調理せず、食べられるもので済ませた。ごはんを炊くためには水が多く必要で、洗い物も増やしてしまうため諦めるしかなかった。それから二

週間以上ごはんは食べられなかった。二週間後、たくさんの方の努力によって断水が解消され、初めてごはんを炊いてもらった時には、これまでよりもずっとおいしいと感じたのを覚えてる。僕はそれまでに何千杯ものごはんを食べてきたが、二週間ぶりの一杯は忘れられない。

僕にとってごはんは日常だ。日常を当たり前前に味わえることは当たり前ではないと思う。日常は多くの人によって支えられ、守られて

いる。災害は日常を揺るがしてしまいう大変なことだ。被災された方、復興のために力を尽くし、僕らの日常を取り戻してくれた方のごとは決して忘れない。

災害と同様、日常を揺るがすものがある。戦争だ。日本は戦後七十七年、世界に戦争の恐ろしさを伝えてきた。広島は核兵器をもう使わせてはならないと世界に訴えてきた。しかし世界では今も戦争が起こっている。戦争では毎日多くの命が奪われ、僕には想像でき

ない恐怖の中で毎日を過ごしている人もいる。そして日常も奪われている。今戦争をしている国の人々にとっての日常は、あの時の僕のごはんのような当たり前のものだと思う。当たり前の日常を奪ってしまう戦争は世界からなくさなくてはいけない。僕は世界中の人々が大切にしてきた日常を取り戻す平和な世界になることを祈っている。僕は、日常が過ごせることの大切さを知り、お茶碗の中にある平和な日常を感謝とともにかみしめたい。